

授業概要

本授業では、わが国における児童家庭福祉の動向について把握するために、児童福祉の理念と対象、児童福祉に関する制度の概要と歴史的展開、子育て支援施策の展開と課題、児童虐待における特徴と制度的対応、さらに保育所・幼稚園・認定こども園の概要や特徴、実施されている保育サービスや子育て環境などについて、幅広い視点から講義する。

授業計画

第1回	講義のねらいと児童福祉の定義・理念
第2回	児童家庭福祉の基礎（1）——「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変化・転換
第3回	児童家庭福祉の基礎（2）——親権と子ども
第4回	キーワードからみる子ども観（1）——墮胎・間引き
第5回	キーワードからみる子ども観（2）——赤ちゃんポスト・内密出産
第6回	キーワードからみる子ども観（3）——リプロダクティブヘルス・ライツ
第7回	児童家庭福祉の展開（1）——戦前における展開
第8回	児童家庭福祉の展開（2）——戦後における展開
第9回	児童家庭福祉の展開（3）——少子化と子育て支援施策
第10回	児童虐待（1）——分類と近年における特徴
第11回	児童虐待（2）——法制度の整備とその課題
第12回	現代における児童家庭福祉（1）——子育て家庭に対する経済的支援
第13回	現代における児童家庭福祉（2）——保育所・幼稚園・認定こども園
第14回	現代における児童家庭福祉（3）——放課後児童健全育成事業と母子保健への取り組み
第15回	講義のまとめ

到達目標

児童家庭福祉の理念や対象など基本的知識を身につける。
 児童家庭福祉の制度や子育て支援施策の展開を把握する。
 児童虐待や子育て環境に関するわが国の特徴や課題について理解する。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。
 講義開始後 30 分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。

予習復習

参考文献や新聞記事などから、取り上げるテーマや時代について簡単な予備知識を備えておく。
 その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、課題レポートと平常点を総合的に勘案して評価する。
 配分は、課題レポート 50%、受講態度や取組姿勢等 25%、リアクションペーパーや作業プリント 25%である。

テキスト

プリント資料を配付する。
 参考文献：浦田雅夫編著、2020、『新・子ども家庭福祉』教育情報出版。
 参考文献：浦田雅夫編著／流石智子監修、2018、『知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉 第4版』教育情報出版。